

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年7月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101250
法人名	社会福祉法人 厚德会
事業所名	グループホーム 大竜
所在地	鹿児島県鹿児島市大竜町6番8号 (電話) 099-248-5541
自己評価作成日	令和2年5月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・敬老会、忘年会、家族会等を実施し、利用者様やご家族との親睦が深められるようにしている。毎月、行事やドライブ、誕生会等を企画開催し、季節や節目を感じることができるよう、支援を行っている。

・利用者様の状態に応じた食事内容や形態の工夫を行い、体調や健康維持に努め、食の楽しみを大切にし支援を行っている。メニューの中に、自施設の菜園で収穫した野菜や果物を取り入れている。

・主治医回診、居宅療養管理指導、訪問歯科、関連病院PTによる生活機能評価等、医療関係者との連携を図り、状態に応じた援助や個別の機能訓練を実施している。看護師を配置し、日常の健康状態の把握や健康管理を行い、利用者ご家族の希望により、看取り介護も実施している。

・防災訓練を年4回実施し、消防署の指導や助言以外にも、地域住民の方の協力をいただいた訓練も実施している。また、地域の防災訓練にも参加している。避難者名簿の作成、防災グッズの準備、炊き出しを想定した非常食の提供訓練と備蓄管理等実施して緊急時に備えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域との関わりを大切にしている。地域の班長を努めたり、地域の行事に積極的に参加し、幼稚園の敬老参観日に訪問したり、校区運動会に参加したり、地域のあいご会で子どもたちとの交流もある。

・年間を通して遠足・クリスマス会・家族会等を行い、家族との絆を作り、メリハリのある暮らしができるように支援している。

・健康管理や医療面で家族とよく連携がとれており、コロナウイルス感染症の感染防止対策の対応が早く、的確に行われていると家族の信頼を得ている。

・災害対策は年4回実施し、町内会長の協力もあり、火災・地震・津波・風水害と取り組んでいる。災害対策のマニュアルもある。

・協力医療機関の定期的な訪問診療や薬剤師の服薬指導・職員看護師による健康管理等、医療連携が整っている。

・管理者は職員との話し合いを大切に意見をよく聞いている。数多くの研修会や勉強会を重ね、資格取得やケアのレベルアップに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ご利用者の立場に沿った方針を基に、理念を作り毎朝唱和し実践に繋げている。新任のオリエンテーションでも説明している。	見直しした地域密着型の理念をパンフレットや玄関・ホールに掲示し、毎朝、申し送り時に唱和し意識づけしている。職員会議等で、勉強会をして振り返り実践につなげている。新任職員にも研修している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域の交流の機会をつくっている。防災訓練での避難誘導も協力をいただいている。	町内会に加入し、班長は順番制で引き受けている。年間行事計画表を基に校区運動会の見物、幼稚園の参観、中学生の職場体験学習を受け入れている。避難訓練の協力があり町内会の避難訓練にも参加している。ボランティアの受入をして日常的に交流している。地域住民が見学や相談に来たり電話でも対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	相談を受けたり、運営推進会議などで説明や助言を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所での運営内容や実情を定期的に報告し、相談やご意見を伺ったり、地域の状況を確認し向上に努めている。</p>	<p>2ヶ月毎に開催している。年間計画や実施結果、緊急時の対応、災害対策、ヒヤリハット、コロナウイルス感染症の防止対策等を報告し、意見交換している。家族や住民代表、地域包括支援センターからも助言・要望等があり充実した会になっている。「災害があった時、家族にできることは?」「ヒヤリハットに時間の記入をしてほしい」等、出された意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>サービス提供において、分からないことを確認したり、年に一回介護相談員の派遣で、気づきをいただき改善に繋げている。</p>	<p>市の担当者とは、窓口に出向いてオムツの申請や介護保険の申請等をしている。電話やFAXで相談したり連携を取っている。介護相談員を受け入れている。市主催の研修会に参加して協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に会議を行い、全職員が身体拘束について正しい理解ができるように努めている。毎日常朝礼時に「高齢者虐待防止の心構え」を唱和し、意識の向上に努め、定期的に事例検討会をしている。</p>	<p>身体拘束廃止推進委員会があり3ヶ月毎に開催している。毎朝ミーティングで高齢者虐待防止の心構えを唱和し、話し合っている。言葉の拘束も含め内部研修を年1回実施している。日中は玄関の施錠はしていない。外に出たい時はテラスでお茶を飲んだり、個別にドライブや職員同行で買い物に出かけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会や勉強会を行い、ケアの振り返りを行っている。虐待が見過ごされることがないように全職員で注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	新任オリエンテーション時に制度の説明を行っている。ご利用者で制度の利用をされている方には、必要時職員へ説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に、内容を説明し不明な点など確認し、入居時に再確認している。改定等は家族会や文書などで説明同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの要望はカンファレンス等を出し合い、家族からは家族会や面会、運営推進会議等でご意見等をいただくようにしている。いただいたご意見等は職員会議で説明し改善できるように努めている。	利用者からは暮らしの中で意見や要望を聞いている。家族からは面会や家族会・クリスマス会・忘年会・運営推進会議時に思いを聞いている。広報誌も年4回配布している。家族から、「入居者が施設になれて安心した」「遠足で入居者の笑顔が嬉しかった」「災害時、避難場所はどこですか？」等、災害対策についても意見が出て、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、定期的に会議を開き改善点がないか確認し、意見があれば、皆で話し合い決めている。	毎月のミーティングや運営会議で意見を聞いている。年1回自己評価の提出や施設長との面談を実施している。業務の見直し・買い物・掃除の簡素化等、職員の提案を検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は年に一回人事考課を行い代表者との面談を行っている。管理者は個別に面談を行った。勤務希望や向上心を確認し技量に合わせて、資格取得や役職を命じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技量に応じて、外部研修に参加し発表の場を設けている。内部研修も行い、外部からの講師も依頼している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所がグループホーム連絡協議会の会員になっており、研修参加で意見交換や他事業所の状況を知る機会がある。法人内での事業所交流は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問又は、見学を実施し、状況把握できるように努めている。入居時は不安やわからない事がないか尋ねたり、細目に言葉かけを行っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に見学を兼ねて訪問していただき、状況を確認し要望など確認している。入居時お互いに気づきを伝えあえるように心がけている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に情報収集しておき、必要な事を確認したり、受けられるサービスを検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>主に家事作業を中心に、裁縫、洗濯物干し、たたみ、野菜の下処理等職員と一緒にできる範囲で行っている。テラスに出て外気浴も兼ねて行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族会や行事を開催しご家族との交流の場を設けている。面会は自由にしていただき希望があれば、外出、外泊、電話等していただいている。年4回広報誌を発行し利用者個々の近況を報告している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>自由に交流をもつていただき、面会時は、居室や和室、テラスを利用していただいている。又電話や手紙、外出、外泊も個別に行っている。</p>	<p>家族や友人の面会があり、和室や居室にてお茶を出している。野菜やお茶菓子の差し入れもある。行きつけの美容室には家族が付き添っている。美容師の訪問もある。墓参りには職員がドライブで同行している。年賀状のお手伝いや外泊も個別に対応している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビングや和室ソファ、テラスで、入居者様同士で交流したり、コミュニケーションが不十分な方は、スタッフが間に入り、交流していただけるよう努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居時に、相談や協力できること等を説明しながら、必要時行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の発言や定期的に、本人の意向を確認し、又家族や職員からの情報をもとに、対応できるように努めている。	日頃の関わりの中で声かけして、「テレビを見たい」「寂しい」等、暮らし方や思いの把握に努めている。困難な利用者には家族から話を聞いたり、身振り・手振りでコミュニケーションを取り、本人中心の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時の面談で本人や家族から、生活歴、既往歴等をお聞きし、情報を共有している。医療関係者や施設関係者からも情報をいただき、参考にさせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りでも利用者の心身状態の把握に努めている。毎日のバイタル計測時に、利用者の表情や体調を観察して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から希望を伺い、職員からも情報や意見を収集し、ケアプランに活かしている。毎月のモニタリングにて、実施状況を確認していき、現状に即した介護計画作成に努めている。	担当の職員が、本人や家族の意向を聞いて身体情報等を話し合い、意見やアイデアを反映させ、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月、見直しは6ヶ月で、状況に変化がある時は、その都度見直し現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護記録、日常生活状況記録、申し送りノートを通して、情報を共有しケアの統一を心掛けている。3カ月目と6カ月目にカンファレンスを開催し、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に要望に応じて、できるサービスを検討し、可能なら取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園やあいご会との交流、ボランティア、中学生の職場体験等で交流を行っている。神社やお寺のお参り、校区運動会参加も個別に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、協力病院の希望時は受診の付き添いの協力を行っている。往診可能な病院とも連携を行っている。	かかりつけ医は本人・家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医である。急変した時の協力医療機関を決めている。協力医療機関からの月1回の訪問診療がある。薬剤師からの薬の指導が定期的にある。他科受診は家族の協力を得ながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期的に常勤看護師の健康チェックを行っている。気づきや相談事がある場合は、勤務時はすぐに対応し、夜間帯は電話対応で連携に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に主治医から病状を確認し、入院中は関係者と連絡を取り、家族へ状況を伝えたり家族の意向も伝えている。退院の予定は予め連絡が入る。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>指針をもとに、家族へ説明している。看取りの希望時は主治医の判断の上、医療連携が取れた場合受け入れ、家族の協力もいただいている。職員へは、看取り時の勉強会や具体的な対応など、確認している。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針があり、入居時に説明し同意書を貰っている。状況が変化するにつれ、家族と繰り返し話し合いをして、意向を確認し、方向性を共有している。延命装置についても確認している。同法人の特別養護老人ホームや看取りについても説明している。看取りの事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>常勤看護師により、勉強会と週1回の健康チェックを通して、急変時や状態変化に対応出来る様助言している。急変時の対応のマニュアルを作成している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年4回防災訓練を行い、消防署や地域住民の協力をいただいている。防災頭巾を使用し避難できるように対応し、迅速に避難するための介助方法の確認も行っている。</p>	<p>年4回の防災訓練を実施。年2回は火災訓練で消防署が立ち合っている。町内会より災害時誘導の協力がある。他の2回は風水害と地震・津波を想定した自主訓練である。避難後の入居者の確認は写真付きのカードで行っている。備蓄は水・カンパン・缶詰・米等がある。コンロ・オムツ・布団なども用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人一人に合わせた言葉遣いをしているが、極力丁寧な話し方を心掛けている。叱咤な時以外はご利用者の前で、本人のことを話さないようにプライバシーに留意している。	毎月、勉強会を実施し一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。丁寧な言葉遣い、名前はさんづけや入浴やトイレ介助等、プライバシーを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	居室内でお話ししたり、1対1の場面でご希望などを伺う事もある。安全面に配慮し、できる限り要望に応えられるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを理解し、日々を快適に過ごしていただけるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合った衣類や寝具類の調整を常に行っている。また、定期的に訪問美容を利用して、身だしなみに留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好をお聞きし、食事形態にも配慮している。野菜の下処理などお手伝いをいただいている。季節の食材もメニューに取り入れている。	嗜好調査を年2回行い、職員が交代で1週間の献立を作成し提供している。個々に合わせて、食事の形態にも気配りしている。行事食はおせち等を作っている。地元の食材を使用し、職員と一緒に、野菜の下ごしらえ等して食事を楽しんでいる。家族と外食する利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に体重増加に注意し、水分量の少ない方には好みの飲み物で補給していただいている。咀嚼の悪い方には、軟食や刻み食等提供している。嚥下の低下による誤嚥に注意し、トロミ等使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の嚥下体操を実施し、日頃の会話の中で、口腔ケアの必要性を伝え、食後は個別に口腔の清潔に努めている。治療の必要な方は訪問歯科の協力をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや時間により、声掛けを行い、トイレの場所等を案内している。	排泄チェック表で、個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。状況に応じてパットを使用している。夜間にポータブルトイレ利用者もいる。大パットから小パットに改善した事例もあり、自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時にヨーグルトをお出しし、個別に好きな飲み物で水分補給を行っている。体操や個別に室内歩行、機能訓練を行っている。排便困難な場合は、内服で調整や坐剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調や安全面に考慮し本人の希望を尊重しながら、楽しく入浴できるようにしている。断られる方や体調不良の方へは、清拭や足浴等保清に努めている。	入浴は週に3回午前中を目安にしている。失禁はシャワー浴等に対応している。入浴を拒む利用者には時間をずらしたり、声かけの工夫をしたり、清拭や足浴を行っている。みかんや柚子湯にして入浴を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や日光浴、レクリエーション活動をしていただき、安眠に繋がるよう努めている。寝具や寝衣の調整を行い、清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状に応じて主治医・薬剤師・看護師に相談し、定期的に薬剤師が訪問し助言をいただいている。定時の服薬が難しい場合は時間をずらして対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご利用者に合わせた嗜好品の提供や家事の手伝い、過ごし方など、希望に添えるように努めている。外気浴や散歩、買い物を取り入れている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>季節の行事（遠足や運動会）にできる限りお連れしている。買い物や散歩、ドライブ、外食、家族との外出など、希望に合わせて個別に行っている。</p>	<p>日常はベランダで外気浴や近隣を散歩している。地域の行事にも出かけている。年間計画を立てて、初詣・花見・ドライブ・紅葉見物・外食等に出かけている。家族の協力で外食・外泊等、個別に外出している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個別に応じて所持したり、必要な物がある場合は、購入の援助や買い物への付き添いを行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望があれば、電話でのやり取りを実施している。直接会話ができない場合は、代わりに意向をご家族に伝えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のすべてに清潔感を心掛け、入居者が落ち着いて過ごしていただけるように、季節ごとの作品を作り展示し、居心地よく過ごせるように工夫している。空調や遮光なども調整に努めている。	共用空間は広く、温度・湿度の空調管理が整っている。採光が柔らかい。台所は対面式で調理しながら対話ができる。大きなソファが数カ所あり、利用者の座る場所の配慮がある。共同作品やぬり絵・折り紙・習字などを飾り、季節感や生活感がある。畳の間もあり、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の関係性を考慮して、テーブルの席を配置したり、活動時も個々に楽しむ事ができるように環境作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状態や希望に沿って模様替えを行ったり、ご家族の写真を飾る等している。	ベッドとチェスト・洗面台が設置している。家から持ち込んだ寝具や衣類・衣装ケース・ハンガー・家族写真・テレビ・時計・暦・仏壇などを置いて、安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には名前を掲示し、トイレには文字を貼って、目で見えて確認できるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない